

春日部市本庁舎整備基本設計業務委託公募型プロポーザル
審査結果及び審査講評

平成29年8月

春日部市本庁舎整備基本設計業務委託プロポーザル審査委員会

1. 審査結果

春日部市本庁舎整備基本設計業務委託に係る公募型プロポーザルを実施した結果、第一次審査で選定された事業者2者から企画提案書が提出された。

提出された企画提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施したうえで、春日部市本庁舎整備基本設計業務委託プロポーザル助言者（以下「助言者」という。）から各提案にアドバイスをいただき、最終審査（第二次審査）をした結果、契約候補者及び次点者を選定した。

契約候補者 株式会社 久米設計

次 点 者 株式会社 山下設計

2. 審査の詳細

第一次審査は、2者の参加表明書等の資料を基に技術職員数、業務実績、組織体制などを点数化して、評価基準に基づき審査し、第1回審査委員会において2者を選定した。

その結果は、以下のとおり。

1 位 株式会社 久米設計

2 位 株式会社 山下設計

第二次審査は、選定された2者に実施要領に基づき、「設計工程計画」、「業務実施方針」、「5つの特定テーマ」について企画提案を求めたところ2者からの提出があった。

第2回審査委員会において、助言者からのアドバイスをいただきながら提出された企画提案を確認し、プレゼンテーション及びヒアリングを実施した。

プレゼンテーション及びヒアリングには助言者も出席し、その後開催された第3回審査委員会において、委員への助言を行った。

また、第3回審査委員会では、参考見積価格と併せて企画提案等について点数化して、評価基準に基づき最終審査（第二次審査）を行った。

その結果は、以下のとおり。

1 位 株式会社 久米設計（B者）

2 位 株式会社 山下設計（A者）

3. 春日部市本庁舎整備基本設計業務委託プロポーザル審査委員会

審査委員長	副市長
委員	総合政策部長
	財務部長
	総務部長
	都市整備部長
	鉄道高架担当部長
	政策課長
	財政課長

4. 春日部市本庁舎整備基本設計業務委託プロポーザル助言者

黒津高行（日本工業大学教授）

5. 審査の経過

平成29年6月	5日	公募型プロポーザル公告
	6月12日	参加表明書等に関する質疑受付期限
	6月19日	参加表明書等に関する質疑に対する回答
	6月26日	参加表明書等提出期限
	6月30日	第1回審査委員会（第一次審査）
	7月3日	第一次審査 結果公表、通知の送付
	7月10日	企画提案書に関する質疑受付期限
	7月18日	企画提案書に関する質疑に対する回答
	8月4日	企画提案書提出期限
	8月7日	第2回審査委員会
	8月8日	プレゼンテーション及びヒアリング実施
	8月8日	第3回審査委員会（第二次審査）
	8月21日	第二次審査の結果公表、通知の送付

6. 講評

本庁舎整備基本設計の公募型プロポーザル審査講評

本稿は、平成 29 年(2017)8 月 8 日に実施されたプロポーザル審査委員会における第二次審査(最終審査)についての講評である。まず、本庁舎整備に係るこれまでの経緯の概略を記し、第二次審査結果の妥当性について述べる。

昭和戦後期に建てられた多くの公共建築は、全国的に更新の時期を迎えており、とりわけ庁舎建築は平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災に問題が顕在化し、各地で議論されるようになってきている。最近、建替えを実施する多くの先行事例が知られている。春日部市においては、震災後直ちに公共建築の被害状況を調査し、学校建築等の耐震方策を実施後、老朽化が進んでいた本庁舎(昭和 45 年竣工)の耐震化の方向性の検討を行っている。具体的には、市は、庁内での議論を経てアンケート調査により市民の声を聞き、本庁舎耐震化有識者会議での検討を経て、結果、庁舎の移転建替えを決定している。平成 26 年には、複数の市民委員を含む整備審議会を立ち上げ、整備基本構想(平成 27 年 5 月)及び整備基本計画(平成 29 年 2 月)を策定している。こうした情報は断続的にホームページ上で公開され、パブリックコメントを経て、「春日部市本庁舎整備基本計画」としてまとめられている。

このように本庁舎整備に当たっては、市民の意向を踏まえた慎重な手続きが 6 年半の歳月を費やして進められた。まずは、庁内及び担当部局、関係各位の粘り強い取り組みとご苦勞に敬意を表したい。

昨日は、市が構想する庁舎を具現化すべく、基本設計業務を委託するのに最適な候補者選定のための公募型プロポーザルが実施された。この公募型プロポーザルは、平成 29 年 6 月 26 日の建築設計事務所の参加表明を経て、参加条件を満たした(第一次審査)2 者が、8 月 4 日までに所定書式による企画提案書を提出し、8 月 8 日の第二次審査に進んだ。プレゼンテーション(20 分)及び質疑応答(20 分)は、原則非公開で行われた。その後、助言者を除く審査委員会委員(副市長ほか)による審査(第二次審査)が実施され、契約候補者及び次点者を選定した。

プレゼンテーションを行った 2 者(以下、A 者案及び B 者案と呼ぶ)の企画提案の骨子を読み解くと、審査委員会による第二次審査の手続きは、プロポーザル実施要領で公表された評価基準に基づき、厳正かつ的確に実施されたことが窺える。よって、審査委員会を選定した契約候補者及び次点者の決定は、豊富な業務実績に基づく両者が提示した企画提案の的確性・創造性・実現性について総合的に判断したものとみられ、妥当なものであったと評価できる。

なお、助言者が理解する範囲内ではあるが、両者の企画提案において「特定のテーマ」に関する特出される点を次頁に添付したい。

平成 29 年 8 月 9 日

春日部市本庁舎整備基本設計業務委託プロポーザル

助言者 黒 津 高 行

(日本工業大学教授・工博)

企画提案における「特定のテーマ」に関する特出される点

庁舎建築は、行政の執務空間であるとともに開かれた公共的空間を有する建物である。最近では震災を契機として、老朽化した公共建築の建替えと共に、時代の要請に応える複合化された庁舎建築のあり方が模索されている。春日部市では、新しい本庁舎整備に当たり、基本計画の中で従来の庁舎機能をさらに充実させるために、特徴的な機能として「誰もが利用しやすい環境の整備」「防災機能」「市の魅力発信や市民活用の空間・まちのコモンスペース」を掲げている。また、敷地内の既存建物を活かす条件（旧市立病院東棟のコンバージョン）が付加されており、設計プログラムを読み解くことをやや難しくしている。今回のプロポーザルの提案条件においても「特定のテーマ」としての5項目を挙げている。

本プロポーザルにおけるA者案及びB者案とも、諸条件を読み込んだ優れた提案となっている。プレゼンテーションにおいても、簡潔で分かりやすい説明を展開しておられ、具体的で美しい図表が提示された。提案された庁舎は、両者とも東西に走る表通りに対し正面性の高いものであった。構造は基礎免震の鉄骨造を採用することで建物の軽量化を図っている。これは、市の基本計画が示す建物配置のイメージと、敷地形状や既存建物との要件から導かれた必然的な解答であろう。しかし、春日部市が抱える町の情報を踏まえる視点からは、具体的な提案密度とプレゼンテーションに大きな表現の差があった。

まず、A者案であるが、東武鉄道の高架軌道実現を前提とした駅東側の街区と西側街区との新たな都市構造の変化を意識した提案である。敷地内で完結する空間創造に留まらず、敷地周辺さらには中心市街地まで連関する考え方を提示している。提案のキーワードは、「かすかベテラス」と名付けた半外部空間の設定であり、庁舎前の広場と共にA者案を特徴づけている。庁舎新棟と東棟の間に「かすかベテラス」を南北に挿入することで、東西軸のグリーンベルトと連絡する空間構成である。災害拠点としての5階建の庁舎にブレース柱構造や無天井化を採用するなど、開放的な執務空間の実現とコスト削減を両立させる新たな試みがみられる。また、執務空間などについてもより具体的で積極的な提案がなされている。

次に、B者案であるが、プレゼンテーションでは、総合設計事務所の組織力を強調し、技術的側面からコスト削減を前面に強調する説明が印象的であった。設計は総じてそつなく纏められており、敷地内でコンパクトに完結する安定した提案である。合理性・快適性を両立したシンプルな庁舎設計を掲げ、6階建の正方形平面の建物を提示している。既存西棟の地下躯体の有効利用の可能性や既存東棟の最小限改修など、建設コストや維持運営コストを抑える志向の基本設計となっている。市の魅力発信や市民活動の場は庁舎北側の前庭に設定しており、庁舎新棟と東棟の前面に「こもれびの縁側」と名付けた底下空間を巡らしている。各活動エリアを区分する役割と共に利用者の動線を明快に視覚化している。また、市民窓口を1・2階に集約し、市民動線をコンパクトにまとめ、待合ロビーと底下空間を介して前庭に開く構成はB者案を特徴づけている。